

# The Wars of Alexander 1795 行 *frekly* をめぐって

安 田 淳\*

## A note on *frekly*, line 1795 in the *Wars of Alexander*

Jun YASUDA

### 1

中期英語頭韻詩において同意語の豊富さは特に顕著な特色であるが、‘quickly’の概念を表わす副詞はその一つである。そして、その副詞の意味に関して検討を要すると考えられる場合がある。*The Wars of Alexander*, l. 1795: Pen ware pai *frekly* a-frayd of pe fell saze で W. W. Skeat は *frekly*<sup>1)</sup> に、‘soon, greatly’ と gloss して ill used と指摘している<sup>2)</sup>。これは単にこの場合だけの問題であろうと考えての指摘であろうが、筆者はむしろ、中期英語頭韻詩の中の「速さ」を表わす副詞の多くに内在している問題であると考ええる。この *frekly* の場合と同じレベルではないにしろ、同様の意味のずれが生じていると思われる場合が見られるからである<sup>3)</sup>。そして、そこにこそ、W. W. Skeat が誤用と指摘したことの問題の意味があると考ええるからである。この小論では、何故にこのような用法が生ずるに致ったかについて検討するものである。

### 2

中期英語頭韻詩で「速さ」を表わす副詞の同意語が数多く見られることは、これまでも指摘されてきているが<sup>4)</sup>、それらの語が様な運命をたどったわけでもなく、多くの場合、中期英語に初めて登場し、近代英語に残ることなく消

えて行ったものである。そのことは、それらの多くが、日常の生活語彙に入ることもなく、もっぱら詩行構成上の必要性を理由に用いられた poetic diction であったことを反映するものであろう。このような語にあっては、新しい意味が派生させられるには厳しい状況であったはずである。しかしながら、意味変化に必要な繰り返し繰り返しある語が用いられるという状況が生み出される<sup>5)</sup>（頭韻詩語は、特定の語と共起することは比較的多いのではあるが）。一定の枠の中で使用される場合（例えば、定型句など）には、それが意味に枠を作ることになり、そこから逸脱することを許す可能性は少なく、従って個々の語の意味が変わる可能性も小さいと考えられる。それに反して、その枠を越えて用いられる場合も当然考えられることであり、その際には何らかの解釈を要求されることになる。その結果、意味解釈にも何らかの影響を与えることになるであろう。特に副詞に関して述べているわけではないが、語の意味を通常の意味を越えて用いる場合について、T. Turville-Petre は次のように述べている。

There are other ways, for a part to add to the stock of alliterative synonyms. By a process which is common in language generally, and particularly so in poetry, words may be used in meanings that have been extended beyond their normal range, and there are numerous example in alliterative verse.<sup>6)</sup>

昭和 61 年 10 月 31 日受理

\* 一般教育部講師